

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより  
逢いてエ

# 雑報 網文

いろいろ考えがあふらす面白い  
いろんな人がいるから楽しい

No. 633

2022年10月 **7** 刊

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 「二つの軸足をもとめとした……」(4) 2
- 「日米地位協定」 6
- お便りから 10
- 山仕事(8月、大平) 16
- 祝 只見線再開通 19
- ロシア軍士気低下 22
- 「経済敗戦」を直視せよ 23
- ニュースつまみ喰い 24
- ケ・い・じ・ば・ん 26

## ロシアの後退を

中国・北朝鮮も見ている。

軍拡競争でなく

## 軍縮・平和を

目指すべきではないか。

(ジェットコースターの  
よんは気温も高下  
どうかお大切に)

10月9日現在の  
会員数214名



この見本誌を  
「読みなスタイル」ボク  
大きらい

年会費 4,000円を

郵便局で 00100-2-20630

「雑報友の会」

へ 掛い込んで下さい。

題 字 敬 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)

カ ッ ト : 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、秋。

## 山仕事(8月、大平)

前回は7月21~23日、今回は8月25~27日。1ヵ月以上離れると、ずいぶん間がある感じがある。

ぼくの「天浜線シルバーパス」は直前の8月23日で切れている。買い直すのに掛川駅ののり継ぎ時間は5分間。駅員が一人の時は断られる。そこで8月25日、ほんた駅を5:29の始発にのった。まっ赤で大きな太陽が顔を出したばかりだ。

東京駅⑩ホームに着くと、熱海行きは7:01に出たばかりで次は7:28。なんだ、いつもの電車じゃないか。がっかりしてその前の小田原行きにのったら、平塚で「後の列車が遅れているので、終乗の小田原で前(東京7:01発)の熱海行きにのり換之されます」とのアナウンス。はて、熱海で島田行きが待っていてくれるか心配しながら行くと、やれ嬉しや待っていてくれて無事シルバーパス(年間8,000円に/回乗車ごと100円)を更新。伊藤(素)、三宅伊都子、原田、山崎さんと5人、敷地駅で正士、久米さんと今回初参加の加藤いつみさん(浜松市の人形作家)に迎えられる。

まずは常森の茶園で草刈りヒツル草とり。女性は台所で調理をしてくれる。

夕食は、アジのなめろう(康江さん)、タイのカレパチョ、牛肉(牛肉はたべない久米さんはサーモン)とジシウのイゴマキムチ巻き、ナスとピーマンと豚肉のみそ炒め、カツオのあら煮、シラスと大根おろし、枝豆に正士さんの手打ちそばを久米さんのだれかえで。

今回、尾上美智子さんから缶ビールを/ケースいただいた。ご馳走さま。



ぼくは春以降母屋で寝ているが、この夜は殊のほか蒸し暑く、寝ていても汗がひかず困る。

8月26日(金)。深夜2時頃に降った雨も、明けるとやんだ。

9時前に水窪(みさくほ)から舟屋千づる、熊谷道子の古二人が応援に来てくれた。この日は、家田(いえた)の田んぼの畦畔草刈り。水窪の古二人には、獣よけ電柵まわ

りの草を手鎌で除去してらう。手なれたお二人には申し分ないが、おかげで早く刈り終った。

続いて常森の茶園で昨日の続き。



水窪のお二人はひと足先に上がって、持参した料理の仕上げにかかると。

昼前、久米さんと袴田克臣さんが参加。囲炉裏のまわりに沢山の料理が並び、中央には山ちゃんが持ってきた稲穂が飾られた。そしてそのメニューは、

(昼) 山菜おこわ、赤飯、カボチャのコロッケ、水窪ジャガタ(ジャガイモの小粒)の煮ころがし、キュウリのぬか漬、夏野菜の炒め物、キュウリと塩イカの粕和え、しめサバ、クイミ草のしそ巻き、スタッドエッグ、生落花生(購入)の塩茹で、さしす梅干し(サウ、シオ、スエ合わせることで塩分を減らした梅干)にミョウガとトロロの吸い物。水窪料理のオンパレードだ。

そして今回も内田美智子さんからお饅頭が。添えられたメモには、「皆さんこんにちは。落ち葉の季節が始まりました。近くの小学校のサクラの落ち葉、用務員さん一人では集めるのが容易ではなさそうです。ゴミ置き場には家庭から出た産木の枝が満載です。私も小さな庭の手入れにかんばります。みなさんお元気で」とありました。感謝



ゆっくりとご馳走をいただき、加藤さんと袴田さんは帰宅。茶園の続きにかかる。昔乙女の仕事はていねいだ。ぼくは、うね間の草は刈ったまま。茶樹の上をぶら下がる草やツリハは上から引きぬくだけ。しかしお二人は地面にかかんで根元に生え

大草までとる。上に顔を出さなくても、根元には何倍かの草が生えているのだ。  
正士さんのお母さんもそうしていた。

この後、肥料をまき、正士さんが管理機でうなう(耕耘する)のだが、お二人が  
やったところは草が機械にからみつかずやり易いと、正士さんは喜んでた。

ほくがび、くりしたのは、千づるさんが使っている「草かじり」だ。ほくはそう呼んで自分  
でも使っているが、小鎌に形は似ているが刃はついていない。刃があると  
切れてしまって根までとれない。千づるさんが使っているステンレスのそれは、  
ほとんど中ほどまですり減っている。千葉の土に石はないが、大小の石礫が  
多い水窪では、永年使っているうちにすり減ったのだらう。その間の努力を思う。



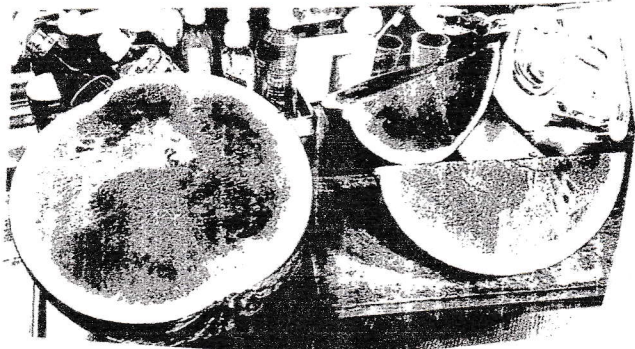
途中で宇屋さんと熊谷さんは、正士さんのおそばを土産に水窪に戻る。お疲れ様。

夕方、管理機を動かす正士さんの目がトロンとしていると、山ちゃん、英ちゃんが助け  
に出て、正士さんには内田さんのお饅頭を食べてもらう。

夕方、シャワーを待つ間、県道上のツツジからむツツ草をとる。

(夕食) トロロとオクラの明太子和之、ニラ玉炒り、こんにやくのわかめ炒り、紀文  
のさつま揚げ、シラスと大根おろし、崎陽軒のシューマイ(三宅さん)そして今  
夜のおそばは、一茶庵の粉。

青山さんが見え、歓談。

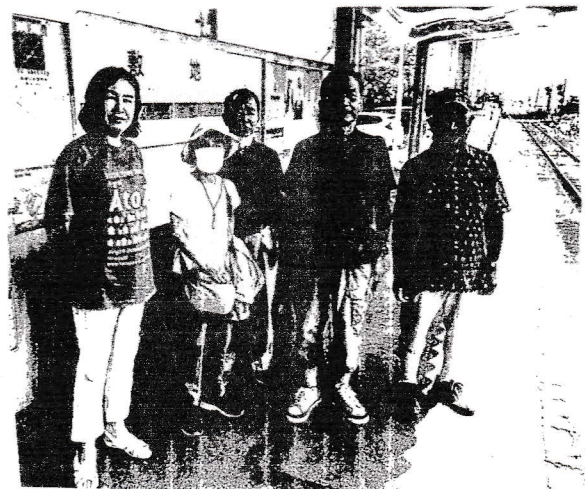
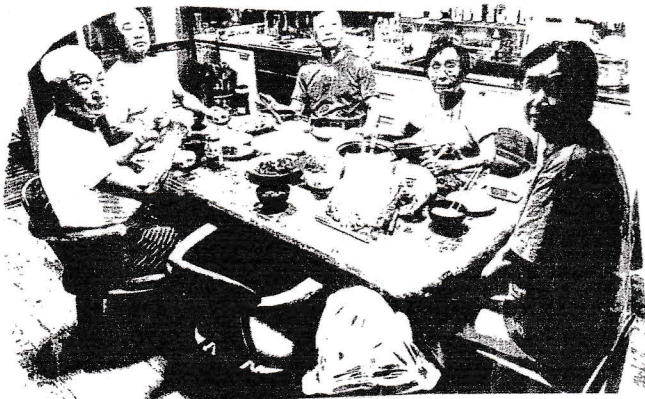


8月27日(土)、晴。朝亦、ツツ草とり。  
久米さんが作業に加わり、正士さん  
が耕耘したあとの土均し。左甲蜂。

(昼) ソーメン、オクラと長芋、モツァ

レチーズ・キュウリ・トマトのサラダ、特大スイカ(正士さんの妹が栽培)、甘  
夏(久米さんが皮をとり、冷凍しておいたもの)をいただき、帰宅。

正士さんはこのあと、「元氣山」の皆さん  
と茶園の肥料まきを。無理しないで。



敷地駅のホームで。